

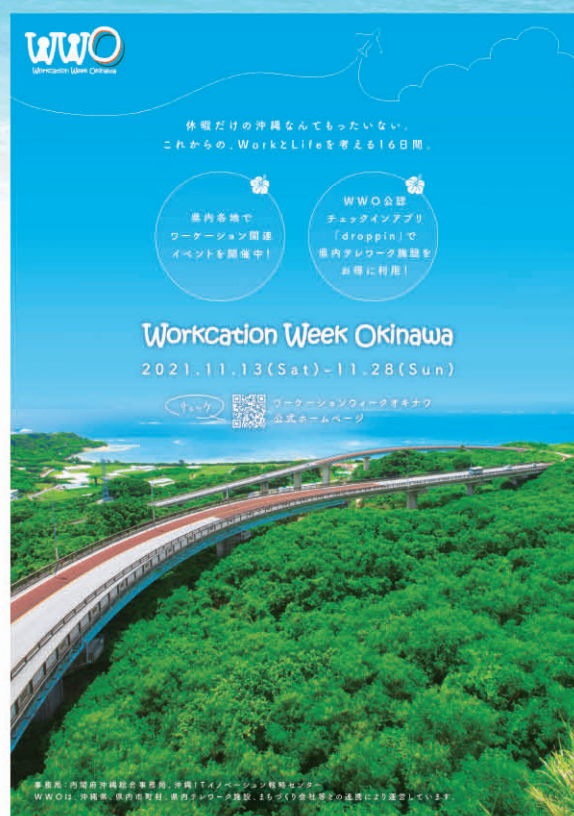
# 初開催！ワーケーション ウィークオキナワ

2021.11.13 (Sat) - 11.28 (Sun)

リモートワークの定着によって、「ワークスタイルの変化」が生まれ、その先に「ライフスタイルの変化」も見られるようになりました。「ワーケーション」「地方移住」「デュアルライフ」「パラレルキャリア」。場所にとらわれない生き方です。ポストコロナ時代において沖縄は、単に「休暇を過ごす場所」だけでなく、「自分らしく生きる場所」として選ばれるポテンシャルがあると考えています。

こうした背景のもと、内閣府沖縄総合事務局では、「ワーケーションウィークオキナワ」を初開催しました。開催にあたっては、沖縄県、県内市町村、テレワーク施設、まちづくり会社、県外テレワーク関連企業と、多くのプレイヤーと連携をはかりながら準備を進め、16日間の期間中に県内各地で46のイベントと、14施設でキャンペーンが展開されました。

また、沖縄でのワーケーションを応援する多くの企業や個人が、プロボノで運営に参加。10社のサポーター企業と23名のアンバサダーの協力を得ることができました。



## 人や情報をつなぐプラットフォーム

今回のポイントは、参加型の仕組み設計です。局の役割はプラットフォーマーとして、県内外のプレイヤーをつなぐことでした。直前までコロナの影響で、準備活動自体がテレワーク中心でしたが、100人を超える方々が会議に参加。ワーケーションに関心のあるプレイヤーが全国から集まり、ネットワーク構築につながりました。県内外の人と人をつなげながら、情報シェアの仕組みをつくり、ワーケーションウィークは単なるイベント・キャンペーンを超え、人や情報をつなぐプラットフォームとして機能できたと思います。

## ワーケーションの変化と進化

コロナの影響はありましたが、それでも実際にテレワーカーを受入れることができ、アフターコロナを見据えたワーケーションの可能性を、みんなでシェアすることができました。この、「みんなでやった」という事が、非常に価値あることだと考えています。ワーケーションは、まだまだ未知なるもの。その可能性は、これからさらに変化と進化が続くと考えられます。実際にワーケーションは、地域にとって人を呼び込む手段であって、その領域は企業進出、移住定住、離島の活性化、伝統文化の継承、人材成長など、多岐に渡り始めています。今回、多くのプレイヤーがテレワーカー達と直接交流することができ、その可能性を肌で感じていただいたと思います。

場所にとらわれない働き方がもたらす地域振興は、これからもっと進むと思われます。当局のテレワーク推進も、次のステージに入っていきます。

